

## 松川温泉の歴史や成り立ち

岩手県中西部にある松川温泉の湯は、何世紀もの間、故郷を遠く離れてこの山奥の地にたどり着いた武士や旅人たちにとって心安らぐご褒美でした。最も古い記録は 11 世紀の最初の数十年にまでさかのぼり、北部領土の防衛を任された安倍氏の家臣がこの湯を発見したとされています。地元の言い伝えによると、大名同士の戦が続いた 15 世紀から 16 世紀には、松川温泉は武士が疲れた体を休める場所となっていました。

松川温泉は標高約 850 メートルの森林の広がる山間にひっそりと佇み、高位の者はほとんど近寄らないため、一般の武士がのんびり寛ぐことができました。文献には、この地域は 1743 年に温泉場として公式に登録されたと記されています。近代に入ると、1956 年に八幡平が十和田八幡平国立公園に包含され、それを機にこの温泉に注目する人が増えました。ただし、この辺りに舗装道路が開通したのは 1970 年になってからのことです。

1950 年代初頭に入ると、役場も旅館もこぞって松川の自然の恵みを開発しようとします。温泉を試掘していた地質調査隊が掘り当てたのは、温泉ではなく勢いよく噴き出す蒸気の貯留層でした。この発見は、最終的に、1966 年の日本初の商用目的の地熱発電所建設につながります。

松川地熱発電所が、今日もこのクリーンな再生可能エネルギーの発電量において日本有数であるということは、この八幡平でも珍しい地下資源がこの地域に、今はそれほど人目に触れないわけではありませんが、かつては人目に触れなかった温泉をもたらしてくれている証しです。さらに、旅館の風呂の湯は源泉かけ流しですが、発電所の湯は厨房に、その蒸気エネルギーは屋内暖房にもたっぷり供給されているので、温泉客は真冬でも木綿の浴衣姿で寛げます。

現代の旅行者にとって、松川温泉の癒し効果のある硫黄泉までは、県庁所在地の盛岡からバスで 2 時間弱です。それでも、この地域は辺鄙な場所にあり、日本国内の人里離れた温泉旅館の秘湯リストに、この地域の 3 軒の温泉宿のうち 2 軒が選ばれています。